

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	三遠南信地域交流事業(三遠南信サミット)				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	企画部	課等名	三遠南信交流・リニア推進		包含する細々目	1	2	1	9	11	6	729
政策	8 交流と連携が活力を生むまちづくり											
施策	82 三遠南信・中京圏の連携推進											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	関連計画 条例等							
		事業期間	5	年度～								

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	三遠南信地域(愛知県東三河地域、静岡県遠州地域、長野県南信州地域)の市町村、経済界、住民	三遠南信地域の市町村数	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了は終了年度とする	
			32			
		三遠南信地域の商工会議所・商工会数	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
			60			
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
・圏域の課題を共有し、将来に向けた取組を確認する。 ・圏域の一体感を醸成する。 *課題解決に向けた取組(実践)は、個別に別事業で展開する。	サミットにおけるアピール(宣言)の合意(1又は0)	18目標		最終目標		
		18実績	1	19目標	1	
		23目標	1	23実績		
		18目標		最終目標		
		18実績		19目標		
	23目標		23実績			

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値	
	三遠南信サミットは、三遠南信地域内の市町村や議会関係者、商工会議所・商工会、国・県、地域住民の協力と参加により、「遠州」「東三河」「南信州」の3拠点地域で持ち回りにより開催している。 三遠南信地域内のより一層の交流と地域連携の強化、及び一体的な振興発展を図るため、将来展望を見据える中でテーマを設定し、全体会での基調講演のほか、行政、経済界、住民団体に分かれての分散会を行い、三遠南信地域の課題を共有するとともに実践にむけた方針をアピールする。 サミットを企画運営する実行委員会は、開催地で組織する。 サミットへの参加者は、三遠南信地域の32市町村の首長、議会関係者、60商工会議所及び商工会の会頭・会長、国・県の関係者、地域住民が参加	18年度の実績	三遠南信サミットin豊橋(会場 豊橋市)(H18.10.23開催) 三遠南信サミットin豊橋「住民セッション」実行委員会への参加	サミット参加者数(人) *参加人数については開催地である豊橋市で把握 参加団体数(団体) 参加回数(回)	約600 4 3
		19年度計画	三遠南信サミット2007in南信州の開催 ・サミット開催に向けた取組(三遠南信地域交流ネットワーク会議、三遠南信地域経済開発協議会、三遠南信地域関日連絡会議との調整、実行委員組織の立ち上げ・運営、国県への後援依頼、会場打合せ、等) ・サミット当日の運営 ・報告書の作成		

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	170	280
	事業費計(A)	170	280
人件費	正規職員所要時間	18年度 72	19年度
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	257	0
	トータルコストA+B	427	280

特定財源内訳や補足事項

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	三遠南信・中京圏と共通の課題を認識する。協力し補完しあう。	都市間交流に参加している市民の割合(三遠南信・中京圏)(%)	現状値	8.5	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	10
	三遠南信・中京圏との連携や交流が重要だと思ふ市民の割合(%)	現状値	74.2	19実績		
		20実績		21実績		
22実績			23目標	80		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
<p>・三遠南信地域は、街道や流域等を通じて、地域固有の文化や物・人・情報のネットワークが歴史的に形づくられてきた。</p> <p>・昭和60年に中部経済連合会が「三遠南信トライアングル構想」を発表し、三遠南信地域の一体的整備の必要性が提唱され、平成5年には「三遠南信地域整備計画」の調査結果が公表された。</p> <p>・このようなことを受けて、三遠南信自動車道の早期整備を目的に、三遠南信地域の行政、経済界による「三遠南信サミット」が平成5年度から開催された。</p>	<p>・当初は道路を基軸としたサミットの開催であったが、平成16年度のサミットにおいて、より具体的な連携事業が推進できるよう転換することを確認した。</p> <p>・市町村合併などにより三遠南信地域を取り巻く環境が大きく変わりつつあり、また道州制の導入や国土形成計画の検討が進められているなど、地方自治体においても、県を越える広域的な地域連携のあり方について積極的な検討が求められている。</p> <p>・平成17年度のサミットにおいて三遠南信地域の新たな圏域ビジョンの策定について提案がなされ、平成18年、19年の2か年をかけて「三遠南信地域連携ビジョン」を策定することとなった。</p>	<p>・議会から「まちづくり」や「住民自治」「地域活性化」などに関連して地域間交流の必要性を指摘されている。</p> <p>・平成17年第4回定例会において、道州制をにらんだ三遠南信地域との連携等、飯田市の取り組み基本姿勢についての多くの意見があった。</p>

【See】18年度の振り返り

目的妥当性評価	(評価) 結びつく (その理由)		有効性評価	(評価) 余地がある (その理由)	
	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	サミットを開催することにより、三遠南信地域を理解し課題等を共有することができる。 一体感の醸成は、協力的補完しあうことにつながる。		成果をさらに向上させる余地はありますか？	サミットへの取組や内容、合意事項を三遠南信地域に広く情報提供することにより、一体感を更に醸成することができる。
対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がある (その理由) 地域連携の強化や一体的な振興発展を遂げるには、議会の参加が必要。	廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由) 県境を越える三遠南信地域の唯一の合意形成の場がなくなることになり、一体的な取組、協力的体制が確立されないことになる。		
意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由) 但し、平成19年度に策定される「三遠南信地域連携ビジョン」により、サミットの位置づけが変わるようであれば見直し必要がある。	他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 類似事業なし (類似事業名、理由) 三遠南信地域の市町村、経済界、住民等が一堂に会す唯一の事業である。		
市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)？	(評価) 必要ある (その理由) 三遠南信地域の一体性を確保していくためには、行政が積極的に関わる必要がある。また、地域連携や振興発展のために行政が担う役割は大きい。	効率性評価 成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 不可能 (その理由) 必要最小限の経費である。		
		公平性評価 受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由) 遠州・東三河地域との連携を強化することは、南信州地域の行政、経済界、住民など地域全体の受益につながる。		

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	平成19年度、南信州地域開催するサミットの情報を、ホームページやメールマガジンを通じて広く公表する。(平成19年8月以降、定期的に)
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？		

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	